自分を問い直して

娘の経験を通して

私には娘がいます。自分の好きなことを学ぶために海外留学をしていた時期がありました。華やかな留学生活という私の想像とは裏腹に、厳しい現実を経験することもあったようです。

留学当時、娘は※アジア人であることを理由に差別的な言動を受けたことがありました。目じりを上に引っ張り上げた「つり目」のジェスチャーをされたり、バスの中で「アジア人は隣に座ってほしくない。」と言われたりすることが何度もあったそうです。

「自分の存在を否定されることは、本当に悔しくて、悲しくて、胸の奥をえぐられるような思いがした。」と娘は話してくれました。

一方で娘は、その経験を通して、自分自身の中にあった偏見にも気づいたと言います。同じ肌の色の人たちの中にいると安心する自分がいたこと、違いがあることは当たり前なのに、どこかで「違う人」を無意識に特別視していたのではないかということです。

差別を受けた経験によって、娘は初めて自分の中にも差別をする心が存在することに気づいたのです。

よみがえった学び

娘は中学生の頃に受けた部落問題学習についても語ってくれました。

「あの頃も差別はいけないと理解していた。でも、それは知識として分かっていただけだった。」

と話し、差別される人の痛みや苦しみを本当の意味で理解していなかったと言うのです。また、

「あの時先生が教えてくれた差別の実態や、自分だけのためでなく、みんなの暮らしを良くしようと差別を無くすために行動した人々の話は、自分の生き方にもつながっていた。そして、自分も差別をなくしていく側に立ちたいと思うようになった。」

と話す娘がいました。

もし、中学校での人権学習がなければ、娘は差別をした相手に怒ったり、自信を失ったりしていたかもしれません。

中学生の時の学びが時を経て意味をもち、娘を変えたのです。



学び続けることの大切さ

娘が差別されたことを知った時、大切な娘の心を傷つけた相手に対して、私はむしょうに腹がたちました。それは、娘が悪いことをしていないにも関わらず、「アジア人だから」という理由だけで傷つけられたからです。

これは「同和地区だから」という理由だけでなされる部落差別と重なるものがあることを強く実感しました。そして、その時初めて、差別はどこか遠くの話ではないことを私は改めて理解しました。

差別の問題を解決していくための方法は、差別をした相手に怒りを向けたり、自分を責めたりすることではないことは、娘の変容を見ても明らかです。

差別と向き合うことは、自分自身の生き方について考え、学び続けることだと思います。

私自身を見つめ直して

私はこれまで、部落問題の研修会や講演会に参加し、差別の歴史や現実について理解を深めてきました。そして、自分は絶対に差別を無くす立場でありたいと思ってきました。でも、その一方では、日々新たに生まれる差別の現実を前に、「自分の学びは本当に差別を無くす力になるのだろうか。」と心が揺れることもありました。

しかし、娘の経験を通して、学び続けることこそが差別を無くす大切な一歩になると教えられました。

これから私は、誰もが安心して暮らせる社会にするため、

○差別に気づく感覚を育てること

○自分の中にある偏見に気づくこと

○差別を見過ごさない行動につなげること

の3点を実践していこうと思っています。

※アジア人差別とは

アジアにルーツをもつ人に対し、見た目や国籍、文化などを理由に偏見をもち、不当な扱いをすること

